

令和3・4年度始良・伊佐地区研究協力校「学力向上」 霧島市立安良小学校研究公開

1 研究主題

自ら学び、考え、表現することのできる子どもの育成
～少人数・複式学級における新たな学びのカタチ～

2 研究発表

霧島市立安良小学校では、令和3年度から地区研究協力校として、「自ら学び、考え、表現することのできる子どもの育成」を研究主題に研究・実践に取り組んできました。

研究発表では、遠隔合同授業を「複式指導の改善」に生かした授業改善の取組やテレビ会議システムを中心としたICT機器の活用を重ねた遠隔合同授業の複式指導「学びのスタイル」の実践が紹介されました。

研究内容及び具体的な取組は、以下のとおりです。



【遠隔合同授業の様子】

(1) タブレットPCの活用

ア 毎週木曜日の朝の活動の時間や間接指導の時間に、個別最適化を実現するデジタルドリル「navima」を活用し、主体的に学びに向かう姿勢を習得する。
イ 調べたことをロイロノートで記録し、工夫しまとめることで、想像力・表現力を発揮する。

(2) ICTを活用した学び合い

ア 間接指導時にガイド役がロイロノートを活用し、みんなの考えを集約し、比較・分類・整理を促す。
イ 遠隔合同授業において、ロイロノートを併用することで多様な考えを視覚的に捉えやすくする。

(3) 他校との遠隔交流・合同授業

ア 自己紹介やレクリエーションなどの学校間による交流【STYLE A】
イ 両校の2学年が同内容で行う授業【STYLE B】
ウ 複式学級同士が学年ごとに分かれて行う授業【STYLE C】
エ 複式学級と単式学級をつなぎ、複式学級の単式化を図る授業【STYLE D】

3 公開授業

研究を具現化した検証授業として、3・4年複式と5・6年複式の授業が動画公開されました。3・4年複式では、外国語活動で竹子小学校と遠隔合同授業を行いました。オンラインで交流をすることで、相手の学校について知ることができ、さらに質問などもあって子供たちの「知りたい、聞きたい」という気持ちをかき立てる授業でした。



【3・4年複式研究授業】

5・6年複式では、道徳科で永水小学校と遠隔合同授業を行いました。ICTを活用することで、全員の考えを可視化することができ、より多様な考えに触れることで、互いに考えを聞いて、自分の考えを深めている姿が見られました。

また、タブレットを使いこなしていて、これまでの積み重ねが感じられました。



【5・6年複式研究授業】

4 授業研究

研究協議の中で出された主な質問は、以下のとおりです。

Q：オンライン合同授業はどれくらいの頻度で行っているか。打合せは、どうしているか。

A：2学期以降、3・4年、5・6年共に、5～6回行った。打合せは、電話やメールでのやりとりのみでなく、テレビ会議も使った。

Q：音声も途切れず相互に不自由なく聞こえているようだが、それなりの機器を揃えないといけないのか。パソコン、Webカメラがあればできるのか。

A：カメラ付きのパソコンやタブレットのみでもできるが、よりよい環境をつくるためには、広角のWebカメラ、ビデオカメラ、スピーカーフォンなどがあるとよい。



【授業研究の様子】

次に、Googleフォームに寄せられた参加者の感想の一部です。

【3・4年複式外国語活動】

- ・ 互いの学校紹介という設定がよく、遠隔で交流する意義があった。
- ・ 画面越しにコミュニケーションをとることではっきりと発音したり、ジェスチャーをしたりすることの必要性が高まるのも良い点だと思った。
- ・ 小規模校では、少人数のために意見の広がりがなかったり、学びの深まりのところで課題があったりするが、遠隔による合同授業でその解決を図ろうとする取組に敬意をもった。
- ・ ICT機器を活用した他校との合同授業を視聴させていただき、活用の可能性が広がったような気がした。

【5・6年複式道徳科】

- ・ 友達の考えを通して自分の考えが変容したことを意識させる場が確保されていてよかった。
- ・ 2校で遠隔合同授業を行うことで通常よりも多くの人々の考えを聞くことができ、他の人たちの考えを聞いて自分の考えを深める姿が見られた。
- ・ 今後、高学年の教科担任制が推進される中、少人数・複式学級でのICT機器の新たな活用の可能性も見えてきた。